

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第3期第4回相模原市中央区区民会議		
事務局 (担当課)	中央区役所区政策課 電話042-769-9802 (直通)		
開催日時	平成27年6月16日(火) 9時30分～12時00分		
開催場所	相模原市立環境情報センター 学習室		
出席者	委員	23人(別紙のとおり)	
	その他	0人	
	事務局	14人(中央区長、副区長、他12人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	2人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p>開 会</p> <p>あいさつ</p> <p>1 議題 中央区区ビジョンの取組みと推進について</p> <p>(1) 平成27年度中央区役所の主要事業について</p> <p>(2) 「中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクト」の進行状況について</p> <p>(3) 今後の中央区区民会議について</p> <p>(4) まちづくり会議の状況と中央区アンケート調査の実施について</p> <p>2 その他</p> <p>閉 会</p>		

主な内容は次のとおり。(◎会長の発言 ○委員の発言 ●事務局の発言)

開 会

中央区長あいさつ

(要旨)

- ・皆様方には区民会議の委員として、また各団体の代表などの立場で、市政、区政、地域のまちづくりに大変お力をいただき御礼申し上げます。
- ・区民会議は地方自治法に基づく審議会という位置づけで、条例で設置しています。基本的には、区政全般についての方向性について議論いただいております。第1期、第2期では、区ビジョン等の具体的な検討を行い、比較的わかりやすい議論でしたが、第3期においては区ビジョン推進のための施策、方向性の議論ということでなかなか難しいと思っています。
- ・本日の議題は、本年度の中央区役所の主要な施策の取組みについての報告をさせていただき、実行組織である「中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクト」の取組みについても話していただきますが、いろいろな個々の課題、事象の裏や背景にある大きな課題について、議論いただきたいと思います。
- ・例えば、人材不足の課題があります。自治会の加入率の低下、民生委員のなり手や団体の後継者がなかなかいないということです。そこにある普遍的な課題は何か。若者参加という考えがありますが、学生の参加はなかなか難しいし、サラリーマンは仕事が忙しくて難しい。そのような状況でどのようにアプローチしていくか普遍的な議論をしていただき、より広く、高い視点で議論をお願いする議題を用意しました。
- ・中央区アンケートですが、昨年度までは一般の区民の方を対象に実施してきましたが、今年度は人材の課題を含めて地域の方はどのように考えられているか、より深掘りした調査を考えていまして審議いただきたいと思います。抽象的な部分もありますが、区役所の基本的な方向性について指摘をいただいて、新たな取組みにつながるような議論をしていただければと思います。

中央区区民会議会長あいさつ

(要旨)

- ・平成27年度が始まり6月になり、第3期中央区区民会議は、2年の任期の折返しである1年がもうすぐ経過しようとしています。また、相模原市が政令指定都市になり5年がたちました。区民にとって中央区が少しずつ身近なものになり、暮らしやすく、住んでよかったなと思うまちづくりを、さらに進めているが、その必要性も一層高くなっていると思います。
- ・中央区の各地区では活発にまちづくりの活動をされていて、5月31日に「中央区地域活性化事業交付金事業報告会」が開催されまして、各地区の区民の方による主体的なまちづくりの事業、取組みが昨年度は全部で46事業あり、各地区から1事業ずつ紹介されました。
- ・先日、山形県東根市に行きました。東根市とNPO団体が、「ひがしね あそびあランド」という冒険遊び場を核として協働事業を進めていまして、東根市に若い市民を呼び込むために、子どもの遊び場を中心にして事業を展開している取組みを見てきました。東北地方には今、新しい世帯が増えてきている地域が3つありますが、仙台市、宮城県名取市、そして東根市だそうです。その目玉となるものが、子供たちが安心して遊べるという大きな「あそびあランド」というものです。
- ・先ほど区長から、区民会議はなかなか難しいかもしれないという話がありましたが、東根市で聞いた話では、協働の先に行くマネジメントがキーワードになり、行政が一步進んでどういう地域をつくりたいのかということを読み取ってマネジメントしていくということでした。市民の側は、行政ができないすき間の部分、なかなか立ち入れないところを積極的にマネジメントして、それがうまく働いた結果、仙台、福島などから休日になると「あそびあランド」に大勢の人が遊びに来る現象が起きているとのこと。中央区区ビジョンの実現ために、区民会議で審議していくことは、マネジメントをどういう方向に持っていくかということではないか思いました。
- ・本日は、今年度の市の施策、事業、「中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクト」の取組みについて説明していただき、今後の中央区区民会議の進め方などについて審議していきます。

1 議題

中央区区ビジョンの取組みと推進について

(1) 平成27年度中央区役所の主要事業について

平成27年度中央区役所の主要事業について事務局より説明を行った。

- 重点目標2の「地域の自主的な活動を促進するとともに、自治会等地域活動団体の活性化を図るため、幅広く団体間の連携等を進める「(仮称)中央区支え合い・助け合いの地域連携推進体制」を新たに構築し、区民主体のまちづくりを進めます。」のNo6にある「(仮称)中央区支え合い・助け合いの地域連携推進会議の設置(新規)」とあるが、詳しく説明してもらいたい。
- 現在いろいろな団体の方々と話し合っている最中で、最終的に決まったわけではない。それぞれの地域では、団体間で十分に連携を取ってまちづくりを進めているが、区レベルで、例えば福祉関係の地区社会福祉協議会や民生委員児童委員連絡協議会の他、子育ての団体、青少年健全育成協議会など、区レベルで団体同士の話し合いの場を設けることを想定している。話題としては共通に抱えている課題、例えば人材の育成などについて話し合ったりする。まず横の連携を区や区役所レベルでやっというここと話を進めている最中である。
- 重点目標3の「地域との協働による区民の誰もが、“安全で安心して暮らせる”地域づくりを進めます。」のNo4の「防犯活動の推進」について、通学路のパトロールなどいろいろな活動を行っているが、実効性のある対策は防犯カメラの設置だと思う。来年度から防犯灯のLED化により、防犯灯の電気代がおおまかな試算で1億円ほど節減できるのでその金額を小学校の通学路、公園、駐輪場などへの防犯カメラの設置に投入すれば効果がある。
- 中央区役所の予算で「戸籍住民事務運営事業」に8,000万円以上あるが、委託されている事業費なのか。また「区域内での主な事業(各局予算分)」の「下水道整備(都市建設局)」とあり、12億円以上のかんりの金額の予算だが、他の地域との整合性やスケジュールもしっかり検討されているのか。
- 「戸籍住民事務運営費」は、戸籍、住民基本台帳、印鑑登録等の届出の受理、各種証明書の発行事務の他、全市の分を中央区で一括して行っている郵送受付分の処理業務を委託している予算である。
- 下水道整備事業は都市建設局が事業担当しているが、河川の水質保全などの目的のため

めに、汚水と雨水を一つの下水管で流す合流式の下水道を汚水と雨水を別々の下水管に流す分流式に変更、改善する事業で、中央区の部分だけで12億円以上の費用がかかる。年度別計画に従い、順次行っているものである。

- 自治会活動で出る話であるが、町内の細い道路などではアスファルト舗装が老朽化して傷み、砂利が出ているようなところがあり、歩きづらく、転倒などの恐れがある。また道路の標示について、一時停止や横断歩道の標示が消えかけている箇所がある。町の美化の点では、古くなった電柱へのいたずら書きが見られる。わたしたちが住む町の暮らしやすさや美化という点で、道路の維持整備や電柱などの美化、もっと早くスマートに対応するようなしくみがないかなと感じている。
- ◎ 地域に住んでいて気付かなければ、そのまま生活していってしまうが、少し視線を向けてみるといろいろなものが見えてきて、気づくことがある。そして、次にどのような方向に進むかという方向性を考えるのだが、市の予算や地域活性化事業交付金を活用した取組みを地域全体で考えていくことが必要なのではないかと思う。全国にもいろいろな取組みの事例があり、若者をうまく巻き込んだ取組みとか、他の取組みを参考にして違う視点で取り組んでいってもいいと思う。地域みんなに知恵や力がついてくると、全体として地域力が上がっていくいい取組みとなる。

(2)「中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクト」の進行状況について

「中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクト」の進行状況について、同プロジェクト実行委員長及び事務局より説明を行った。

- 交通事故防止の啓発は、どの地区でも「交通安全母の会」も含めて力を入れて取り組んでいるが、実際に地域を歩いてみると設備のハード面で、カーブミラー、坂道注意などの注意看板の設置やカラー舗装をしたり、市に要望することではあるが、地域の中で対策を話し合ったりすることにより啓発されてくると思う。カーブミラーの設置など、市に要望しても予算を準備する都合で来年度以降に行うということになってしまう。事故防止の設備を設置することで、1人の人の交通死亡事故がなくなるなら、どんなにお金を掛けてもそっちの方がよい。そして、地域みんなで話し合い、力を合わせてやっていければもっといいのかなと思う。
- ◎ 交通安全の意見が出たが、「中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクト」の取組みの関係で意見や説明される方はいますか。

- 「中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクト」には、防犯・交通安全プロジェクトがある。交通安全に関しては、残念ながら中央区は自転車事故が県下でワースト1位である。プロジェクトでは、まず基本はみんなが交通ルールを守り、命の大切さについて自分のことだと思ってもらうために、小学校から高校までの学校やいろいろな団体に呼びかけている。自分は交通事故を起こさないという変な自信をもっている人がいて、そういう人にも十分に交通安全を呼びかけていく必要がある。我が国では交通事故は昭和45年に1万6千人以上の年間死亡者を出し、その後ずっと減少して、去年は年間4,113人の死亡者であるが、それでも4千人以上の犠牲者が出ていて、いまだに大変な問題となっている。プロジェクトとしては、自治会などにご協力いただき啓発活動や交通安全チラシの配布などの活動をしているが、区民一人一人にどうしたら交通安全意識が浸透していくか試行錯誤しながら取り組んでいる。高齢者の交通事故多発地域になっているので高齢者への啓発も喫緊の課題となっている。自治会に加入していなく、地域の集まりにも参加しない人が多くいるので、そのような人たちにどのようにして伝えていくか第一に考えている。とにかく自転車と高齢者の交通事故多発地域の指定を取り払いたい。地域の皆さんにご協力いただきながら、まずは一人一人が交通ルールを守るという基本を呼びかけて交通安全を実行していきたいと思っている。
- ◎ 交通安全については、まずは基本に戻り幼少から大人まで全ての人が交通ルールを認識して守り、さらに交通安全施設のハードの面と組み合わせて対策を進めていくのかと思う。
- 光が丘地区では、社会福祉協議会を中心に「ふれあい交流会」を20年近く続けている。市、警察、障害を持った方や中学生、高校生などが参加して、年に1回9月に行う。地区を4つに分けて全ての地区で開催する。それぞれの視点で問題や課題を挙げていき、課題を整理していく。市の道路の主管課や警察署も参加しているので課題を整理して質問し、回答をもらっている。ちょっとした道路補修などはその年のうちに回答をもらい対応している。警察署も交通標識の要望などはできるものから予算をとってくれる。1つの自治会単位で動くのではなく、光が丘地区は地区自治会連合会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員連絡協議会や公民館、全ての団体がそこに参加して「ふれあい交流会」を継続している。光が丘地区の「ふれあい交流会」は全て報告書を作成しているので、地区社会福祉協議会に問い合わせいただければ詳しく説明するので参考にしていただければと思う。

- ◎ 「中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクト」で文化・教育・スポーツ分野のプロジェクトで説明や意見はありませんか。
- 文化、教育とスポーツという広い分野の中で取組みを検討してきた。相模原市中央区の子供たちにとって、中央区が故郷、田舎なのでふるさとづくりということで、普段あまりやらないことを体験しようという取組みを考えた。三味線や尺八、能などの伝統芸能の他、天文科学、華道、茶道などさまざまな種目を体験できる文化祭を7月20日に開催する。多くの子供の参加を目標としているが、子供が来場してお父さんやお母さんも一緒に来れば、さらに参加者を増やしてイベントを成功させたいので、よろしく願いしたい。
- ◎ プロジェクトの商業・イベント分野で説明や意見はありませんか。
- 商業・イベントプロジェクトでは「中央区イベント大賞」という取組みで、昨年度中央区で開催されたイベントから応募してもらい、大賞他を表彰するものである。区内のイベントを表彰することにより、イベントが更に発展していくことと、地域固有の文化を守り、地域に対する愛着心を育むことで地域の活性化を図ることを目的としている。6月30日まで募集していて、公民館などいろいろな施設で募集要項を配布しているが、どのくらい周知されているだろうか、締切りまで15日程なので区民会議委員の皆様も、地域で一声お声をかけていただきたい。
- 現在どのぐらい応募があるか。
- 現在、応募は0件であるが、問い合わせを何件も受けているので、これから応募が出てくると思われる。大学や高校などにも案内している。あと2週間、力を入れてやっていきたいと考えている。
- ◎ 魅力発信プロジェクトで説明や意見があったらお願いしたい。
- エフエムさがみの「大好き！中央区」で15分ほどのラジオドラマを放送した。田名向原遺跡の話だったが、聴いていない方はぜひエフエムさがみの再放送などで聴いてほしい。平成27年度もシナリオを募集している。本日はまちづくり会議からの委員の方がいらっしゃるので、地域の中で紹介したいポイントなどがあれば事務局まで寄せてほしい。地区のここをラジオドラマに仕立ててほしいという話題がありましたら、ぜひお願いする。
- ◎ 最後にプロジェクトの広報宣伝の部門で現在の評価や課題について、お願いしたい。
- プロジェクト全体を広報宣伝し、応援する「中央区さくら咲くボーイズ39」を立ち

上げて、中央区の小学生から高校生まで21名のお子さんで結成した。中央区ビジョンに沿った取り組みを宣伝していくシンボリックなグループで、アイドルグループではないが子どもたちによって宣伝していくというものだ。いろいろなイベントに出演して、中央区を宣伝していく取り組みをする。課題としては開始したばかりなので、他のプロジェクトの防犯や交通安全などの取り組みとの連携を模索していきたい。

- 私自身、福祉・健康プロジェクトのモデル事業で、清新公民館で開催された「方言ラジオ体操」に参加してきた。非常によかったと思ったが、その後、清新地区のサロンなどで方言ラジオ体操を取り入れられて継続しているようなのでうれしく思った。私の自治会でも方言ラジオ体操を取り入れていこうとしている。大切なことは一地域で始まったよい取り組みが区全体に広がっていくことだと思う。もう1点、「中央区の歌」はどこで流してどうするのか難しいと感じる。できれば盆踊りの歌を作ってもらえれば、夏祭りの盆踊りでかけようと思う。
- ◎ ある地域で定着し始めたことが区全体に広まっていくと、いい方向に動き出すかなと感じる。各部門のプロジェクト説明してもらったが、これから取り組みが本格化するという段階なので、今年度さらに取り組みを進めて年度の終わりの時期に報告していただくことにしたい。楽しくわくわくする取り組みなので区民会議で報告していただき、意見などもしていきたいと思う。
- プロジェクトの実行委員長を務めている。私自身もいろいろ考えていたが非常に難しい。昨年度、取り組みをスタートしたが、現在挙げているテーマが中央区区ビジョンを実現するために本当にふさわしいものかどうかということでは疑問がある。しかし、各プロジェクトの部会でいろいろと十分に検討して取り組みを決めて取り組んでいるので、各部会の意思を尊重している。今後さらに検討を進めていくにしたがって、本当に区民が望んでいるものをつかみながら、効果がある価値あるものに取り組んでいかなければならないつもりでいるので、ぜひ区民会議委員の皆さんにもご協力とアドバイスをお願いしたい。

(3) 今後の中央区区民会議について

今後の中央区区民会議について事務局より説明を行った。

- ◎ 昨年度に引き続き、「中央区拡大区民会議」を開催することについて、いかがであるか。
- 今の時代から広報媒体には広報紙の他、ホームページ、ツイッターとか様々な媒体が

ある。どのように効果的に取組みを発信していくのかということが、大きなテーマだと思ふ。現在、新聞を読んでいる人はどの程度いるか。若い世代の人はほとんど新聞を購読していないので、折り込まれてくる広報紙を読むことがない。さらに新聞に広報紙が折り込まれていても、新聞を購読している人で広報紙を見ている人がどの程度いるか。つまり、広報紙で周知しているつもりでも見ている人は全体のせいぜい2～3割程度しかいないと思われる。大半の人は見ていない、気がついていないということである。ここで相模原市プレミアム商品券を販売する。先行販売について6月1日広報さがみはらに掲載した。予約をはがきで受け付けているが、現在のはがき2万枚を目標としているが、まだ2,500枚しか集まっていない。自分たちは市民に知らしめているというつもりでも知らない市民は大勢いるので、その溝をどうやって埋めるかということが1つの課題だと思ふ。何かいい方法、アイデアがあれば検討していただきたいと思ふ。

- ◎ この自治体も頭を抱えている課題だと思ふ。中央区拡大区民会議の開催について、意見はあります。
- 私は若い年代の方かなと思っているが、新聞については確かに見ない。ネットでニュースを確認するが、細かい字を読むことが少しおっくうになってきているようである。新聞を読まなくなったということは、多くの人が同じような状況にあると思ふ。広報紙は子育てをしている時期には、子どもを育てることに関する情報を見ていた。現在のプレミアム商品券のことは、何となく知っていたような感じである。どんな場面でも誰かに知らせることはなかなか難しいと思ふ。中央区拡大区民会議については、区民の皆さんと話ができるいい機会だと思ふが、11月15日に開催ともう決まってしまうのか。
- ◎ 日程については区全体の行事などを確認した上で提示している。中央区拡大区民会議を開催することは、よいということですか。
- 中央区の各地域でがんばっている方の活動を知ってもらい、区民の皆さんにがんばっている人がいることを知ってもらえる機会になる拡大区民会議になり、大勢の参加があるといいと思ふ。
- 中央区拡大区民会議の日程は、各地区で開催されるいろいろなイベント、そして今回は「若い世代のまちづくりへの参加」というテーマ案なので、大学や高校の試験や文化祭などの学校行事も確認、配慮している。そのようなことを踏まえて候補の開催日程をしぼり、会場の空き状況などを考慮した。地区によっては一部イベントもあるのだが、

比較的皆さんが参加されやすい11月15日に開催するという案である。何とぞよろしくお願ひしたいと思う。次に区民への情報発信、提供については、いかに27万人の中央区民の皆さんに情報共有をしていただくか、非常に大切だと思っている。区版広報は広報紙として新聞折込みで配布しているが、未購読世帯があるので、ダイレクトメールなど他の方法でも補っている。また、今日的な方法のインターネットで市のホームページを活用した方法、SNSのフェイスブックなどでも中央区の情報を提供している。いろいろなツールを使っても情報がまだ届いていない方がいることは認識している。中央区のフェイスブックだと、皆さんの興味があるものの場合、27万人の区民のおよそ1%に当たる2~3,000人が2~3日の間で閲覧しているというデータがある。今年度の「中央区拡大区民会議」では若い世代の人たちのまちづくりへの参加をテーマ案にした。どの地域活動団体でもこれからの活動の担い手をいかに増やしていくかということが大きな課題になっている。そのために、いかにして未来がある若い世代にまちづくりに関わっていただくか。今取り組むことで将来的に花になっていくと思っている。多くの方に参加していただくために、区内の高校や大学に行って、チラシを配布したり、人伝えの方法によって拡大区民会議の宣伝をして、多くの方に参加していただくようにしていきたいと考えている。

- ◎ 「若い世代のまちづくりへの参加」というテーマ案であるが、何か意見はありますか。
- 若い世代の取込みは、難しい部分があると思う。広報紙の配布手段は、新聞に折り込むことが主であるが、学生はほとんどインターネットを通じて情報を入手したり調べたりする。また、口コミも効果的であると言われているので、インターネットと並行して口コミの方法も考えていった方がよいと思う。拡大区民会議という対面して意見交換する場は必要だと思うが、開催する曜日や時間を限定されると、参加できない人は出てくる。意見を集める機会はそれだけに限らないが、フェイスブックなどで意見を集めてもテーマが散漫になったり、何でも意見をどうぞみたいな感じになってしまう恐れがある。例えばホームページで、焦点を絞ってあるテーマについて「これについてはどう思うか」という意見を募集する。そして、蓄積した意見を区で動いているプロジェクトに生かしていく。自分が言った意見が反映されると、若者にとってやりがいになり自身の存在感を感じることができるので、意見をもらおうと同時にそれに応えていく。そうすることでさらに次の機会の呼び水になっていくと思う。

また、先ほど話題に出たプレミアム商品券は、それを使えるスーパーなどの店舗にポ

スターを張ることにより効果がある。中央区のイベント大賞で出す賞金10万円分もプレミアム商品券を用いた方がよい。今後、副賞を出すようなイベントの際は統一するという徹底すべきだと思う。中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクトの取組み、地域活性化事業交付金の事業もテーマや内容に重複しているところがある。一つの団体だけで知恵を絞ってやろうとするのではなく、地域ごとの成果をプロジェクトで吸い上げて横断的に取り組んでいくこともよいのではないかと思った。効率がよい方法でみんなが参加できて、自分のやったことが区全体に広がっていくと充実感が高くなっていくという相乗効果もある。中央地区で行った交通安全川柳があったと思うが、例えば「子供たち まねて覚える 交通マナー」という川柳を小学校の近くの交差点に標示すると、なかなか信号無視はできなくなるという効果があると思う。どこかの地区のいい成果を、区としてプロジェクトで汲み上げて大きなものに作っていく。若い世代の人は作り上げる過程が好きだと感じるので、拡大区民会議を開催するのであれば、世の中をいい方向に変えていくことに参加してみないかという呼びかけがよいと思う。学生は作ることに関して「未来」を感じるから、そういう文言、キャッチコピーを少し工夫すると、とても効果があると感じている。

- ◎ 若い世代の人は、目に見える成果を新鮮に感じて喜ぶ。褒めてもらうことに飢えているので、いろいろな方法でそれぞれの世代を巻き込むことが大切だと思う。
- 学生も次代を担う若い世代として大切なのだが、本当に参加しづらいのは30、40代の世代だと思う。将来のまちを考えて、自治会活動の中心になったり、いろいろな場面で活躍してもらうために、この世代に参加してもらうことが大切だ。この世代にターゲットを当てられるのかどうか。
- まちづくりの喫緊の課題は、まさしく30、40代の世代の人たちが活躍していただく場面ができることは本当にいいと思う。是非30、40代の方たちにもご意見いただける拡大区民会議にしていきたいと思っている。相模原青年会議所の方たちにもご協力をお願いしたいと思うのでよろしく願います。
- インターネットのホームページやフェイスブックなどは、興味がないと見ないと思う。相模原市青年会議所ではサポーターズクラブを立ち上げている。メールアドレスを教えてください、イベントなどの情報を直接メールする。現在1万5,000人以上の会員がいて、いろいろな仕掛けをやるとすると、ターゲットを絞って年代別にメールで案内することができる。拡大区民会議に30、40代を呼び寄せるようなことができると、もっ

と良くなるかと感じた。

- 30、40代の世代の方は、独身であっても家族をもっていても朝早く出勤して夜帰ってくる。仕事や子育てに忙しく物理的に時間がないので、こういう会議に出るということは難しいと思う。学生ももちろんだが、30、40代の若い世代の方に自治会活動などのまちづくりに一番参加してほしいと思うが、参加しづらい。今、ご意見をお聞きして、区役所ももう少し積極的にやる必要があると感じた。
- 30、40代の世代は、子供と遊んだり家庭サービスも大切だと思う。こういう意見交換のような会議は、堅苦しい雰囲気や場で開催しなければならないとは思わない。年に1回会議を開催するという感覚ではなくて、子供を連れていけるようなイベント、地区の盆踊りでも構わないと思うが、そういう場で拡大区民会議的のようなことをしてみてもよい。何かイベントと抱き合わせで、家庭サービスもできて、いろいろな人と意見を交わすこともできる。会議でないと意見が抽出できないという感覚は改めてみると違ってくると思う。
- 保育所には、若い方で20、30代の親御さんが子供を預けているが、うちの園では入所すると児童票を提出していただく。所属する自治会を記入してもらっているが、ほとんどの方が承知していない。また家庭訪問も実施していて、地域の話題や行事などの話をすると、お父さんがお祭りでお御輿を担ぎたいというような話も出る。ならば自治会に加入すれば、自治会便りなどで地域のことがわかるし、いろいろな活動に参加しやすくなりますよという話をする。今の若い世代の方は、楽しいことから自治会に入っていくというきっかけがよいのではないか。でも自治会に入ると楽しいこと以外にも、いろいろな活動に参加しなければならないが、楽しみから入っていくことは大切だと思う。私どもの保育所では転入してきたご家庭に、どの自治会の地域になるかお知らせするようにしているが、住所から推察することは難しいこともあるので、まちづくりセンターや自治会も転入してきた方に地域とのつながりを説明してほしい。上溝の場合はお祭りに向けて、お父さんたちを巻き込んでいくことをきっかけに地域に根差していってほしいという考えがある。若い世代は自分の楽しみはすごくエンジョイしてやっているので、こんなに大変だよというのではなく、こんなに楽しいよということと子育てをつなげていく。保育園も地域に根差していくように頑張っているが、地域と連携した保育園としていきたいと思う。
- ◎ 保育園の取組みとして、東京都のある民間保育園では園の中に専従のコーディネータ

一を置いているいろいろな悩みなどを聴き、相談や問い合わせする所を案内するという横をつなぐための取組みをしている園がある。さらに保育園の中に、地域の人たちが集うためにパン屋さんを作り、交流の場づくりとしている。保育園を起点にした地域づくりを行っている例がある。ユニークな取組みとして注目されているが、おそらく保育園だけでなくいろいろな所でできると思う。昨年の拡大区民会議の基調講演でも子供、お祭り
とペットの3つを要素で取り組むと、皆さんスムーズに入っていくという話があった。

- 拡大区民会議では、相模原市の地域に関わって生きていきたいという思いが高まるようなテーマの設定が必要だと思う。何歳くらいの若い世代をターゲットにしていくか。来年の参議院議員選挙から18歳以上に選挙権が与えられる。自由な発言も必要だが、同時に責任がある行動もこれから求められてくる。単に若い世代が集まり、テーマに分かれて議論するのはよいが、現実的なテーマを示して話し合う必要があると思う。

◎ どのようなテーマを設定していくかが大切な鍵になるということだと思う。

- 自治会長を長年務めているが、最大の課題は役員の高齢化である。30、40代の世代の会員はいるが、役員を選出する段階になると世帯の妻の方が出てくる。役員は大変だから妻の方が出てくるようだ。妻にしてみれば、夫の負担を少しでも軽くしたいから自分が出るようだ。なかなか若い30、40代、あるいは50代の男性が参加してくれないことが最大の悩みである。今、私がいる自治会で取り組もうとしていることは、自治会に青年部をつくろうと考えている。20代から幅広く50代までの方々に、男女問わず集まっていただいて、緩やかな青年部を立ち上げたい。現在、発起人を探して、5、6名見つけたので、あと10人ぐらい集めて立ち上げたいと考えている。活動はバーベキューや親子のボウリング大会、ハイキングをしたり、年間で春夏秋冬ぐらいの緩やかな青年部を立ち上げて、その中から次の自治会を担う役員とか、つながりをつけていきたいと思う。すでに一部始めているが、例えば、夏祭りで焼き鳥の出店を出すと自分だけでは大変だから、メンバーに仲間を呼んできたりする。自治会の加入は関係なく手伝いに来てくれたりする。そういう核をつくって、さらに広げていくことが大事だと感じている。これから5、6年かかるかもしれないが、そういった取組みを進めていきたいと考えている。

(4) まちづくり会議の状況と中央区アンケート調査の実施について

まちづくり会議の状況と中央区アンケート調査の実施について事務局より説明を行った。

- 昨年度の中央区アンケートの「あなたは今後も中央区に住み続けたいと思うか」という質問に対する回答で、高齢者になるほど、「そう思う」という肯定的な回答が80、90%と高く、これはすばらしいことだ。これは私も含めて高齢者の立場からいうと医療体制が充実していることが安心に感じる基本だと思う。
- まちづくりでイベントの開催という取組みがいくつも出ているが、私は防犯と防災が大切だと思う。本日の会議資料を見ていると、防犯と防災の言葉が入り混じっているが、はっきりと防災と防犯に関する項目を分けて、意識しながら進めてもらいたい。また、広報について、市の広報紙よりタウンニュースで情報を得ることが多いということを近隣の人に聞いた。市の広報紙ももっと興味を持てる内容のものをもう一度構築した方がよいと思う。この区民会議は時間に限りがあるので、回数を増やして委員の意見を集約できるようにした方がよい。時間に制約があるから委員の思いが十分会議に反映しない。
- 区制5周年なので、区制になってよかったという部分を発信することが、区民にとって一番うれしいことであるが、私自身は区制になって良くなったと感じることは現実的にそんなにない。アンケートなどで市民の要望を吸収して、いかに評価が高いものを優先順位づけして発信していくかということが大切になってくると思う。例えば、横浜市の地域包括ケア計画への意見募集では、素案を市民に配布して意見を書いてもらうが、素案を見ることによりこの地域包括ケア計画を勉強できるのである。工夫できることはあると思う。また、自転車事故対策の場合、一番意識させるのは参加させることだと思うのである。自転車に乗っている間は携帯電話やスマートフォンを使わないとか具体的に啓発運動をするのだ。中央区として交通事故防止についてどういう方向で徹底するか発信して運動を継続していくことが交通事故の減少につながると思う。
- 中央区意識アンケートで、「知人に紹介したい中央区のイベント」の結果で、相模ねぶたカーニバルに20%以上の支持があるが、このイベントは昨年をもって終了で今年から開催しないそうである。ここ数年、確かに参加者が少なくなっているが、アンケート調査では20%以上の関心があり、なかなかのものだと思う。このねぶたカーニバルは22年も続いたのであるが、終了するに至った経緯が今一つはっきりしないと感じる。一度やめると再び開催することは大変である。それに代わるものもそう簡単にはない。

- まだ正式に発表する段階ではないが、「さがみのまつり」というタイトルで、第2回ペインティングパフォーマンスグランプリを昨年からの継続で開催の意向を中央区役所に打診している。学校側との交渉の課題もあるので、今後どうなるかははっきりしないが、10月11日を開催の案として非公式に動いている。正式には別の場で関係者が発表すると思う。もう一点として、中央区は観光振興の部分でかなり重要な「相模原市民まつり」と「潤水都市さがみはらフェスタ」の会場になる。しかし、これらのイベントが中央区のイベントという位置づけがないのである。水郷田名で開催している「相模原納涼花火大会」を含めて、観光振興計画の位置づけでは相模原市全体の中で位置づけられている。私たちは中央区のイベントだと思っけていても、行政の計画での位置づけがあるので、今後整合性をとる必要があると思う。
- ◎ 政令指定都市になり、区に分かれる以前から中央区には大きなイベントがあった。市と中央区ですみ分けが見えにくく、区民自体も見えなかつたりしている。方向性がどうなっていくかなと思われている行事があるなら、行政もすみ分けを明確にすると思っける。それでは、今年度の中央区アンケートはまちづくりの会議の委員の方を対象に実施していくということである。

2 その他

- ◎ その他として、委員の皆さんから共有したい情報などありましたらお願いします。
- 5月末に開催された「中央区地域活性化事業交付金活動報告会」に出席したが、区内の各地区で非常にいい取組みをされていると感じた。そういう取組みを「中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクト」で吸い上げて、さらにいいものにしてほしいと思っける。例えば、交通安全の取組みは全地区で行っている。各地区の事業で取り組んで良かった点、悪かった点を次の事業に反映できるように、プロジェクトで取りまとめてみてはどうか。次に、いろいろな催し物を開催しているが、光が丘地区の春休みのお楽しみ工作教室のポスターの完成度が非常に高く、どのようにして作成したのかと思っける。各地区で事業を実施していく上で、ポスターの作り方の指導やアドバイスを受けられる集まりがあると思っける。事業の宣伝の点で効果的で他の事業に反映してほしいと感じた。また、ポスターに相模原市地域活性化事業交付金を活用した事業であると明示されていない例があったので、中央区のシンボルマークとともに記載することにより、相模原市が支援していることを周知して、さらに地域の人たちの要望で実現した事業であることもPR

することにより、参加して、意見を言っていけば何らかの形になって実現していくことが少しずつ浸透していく。これらのことについて統一性を持たせて記載してほしいと思った。もう1点として、地域活性化事業交付金を活用して上溝地区でウォーキングマップを作る取組みがあった。成果物として、中央区のホームページなどにその成果物を掲載することにより、その地域の人だけでなく市内の人たちも利用できるのもので、各事業を取りまとめて、中央区や市全体でも生かせるような工夫をしてほしい。

- ◎ 地域活性化事業交付金事業は、相模原市の宝物だろうと思う。各地域で取り組んだ成果を取りまとめて、さらに市や中央区全体で活用していく段階だと思う。

事務局から次回の会議日程について、よろしく願います。

- 次回の区民会議は、8月の下旬から9月の上旬ぐらいの中で、地域の行事や会議などを確認させていただいた上で、日にちを設定させていただきたいと思う。

中央区区民会議副会長から閉会あいさつ

(要旨)

- ・地域で取り組む事業の広報は、工夫して努力している部分であるが、なかなか見てくれないことが、いろいろな団体が共通して持っている課題だと思います。区全体に共通する課題については、横の連携をとってそれぞれの組織が持っているノウハウを共有して活用していく取組みを検討しなければいけないと思います。
- ・広報のあり方については課題があると感じています。区民会議や「安全・安心と夢・希望のプロジェクト」の結果などはできる限り広く区民に知ってもらいたく、これらの点は引き続き検討を進めなければならないと思うので、次回以降の区民会議でも、意見があればお願いします。
- ・本日はお忙しい中、出席いただきありがとうございます。以上をもちまして中央区区民会議を終了いたします。

以 上

第3期第4回相模原市中央区区民会議 委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	井狩 芳子	学識経験者（和泉短期大学）	会長	出席
2	石井 トシ子	相模原市公民館連絡協議会中央区ブロック		出席
3	井上 政市	相模原交通安全協会		出席
4	浦上 裕史	一般社団法人相模原市観光協会		出席
5	河本 博	大野北地区まちづくり会議		出席
6	木内 哲也	一般社団法人相模原市医師会		欠席
7	木村 清	横山地区まちづくり会議		出席
8	坂本 洋三	相模原市地区社会福祉協議会連絡協議会中央区連絡会		出席
9	佐々木 亮一	公益社団法人相模原青年会議所		出席
10	清水 洋子	相模原市私立保育園園長会		出席
11	代田 昭	中央地区まちづくり会議		出席
12	関戸 丈夫	田名地区まちづくり会議		出席
13	武井 弘吉	小山地区まちづくり会議		出席
14	竹田 幹夫	星が丘地区まちづくり会議		出席
15	田代 明寛	清新地区まちづくり会議		出席
16	田所 昌訓	相模原市自治会連合会	副会長	出席
17	千葉 更男	公募委員		出席
18	永井 廣子	相模原市立小中学校PTA連絡協議会		出席
19	中西 豊和	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
20	長谷川 光義	上溝地区まちづくり会議		出席
21	久松 伸	学識経験者（麻布大学）		出席
22	平林 清	光が丘地区まちづくり会議		出席
23	本郷 永子	公募委員		出席
24	宮津 敏信	公募委員		出席
25	横山 房男	相模原商工会議所		欠席